

モデル事業名	都市との交流による持続可能な地域づくりモデルの構築 ～1社1村交流からの進化、都市と農村の戦略的互惠関係の構築～
活動団体名	松平村塾（島根県 江津市 松平地区） 松平ラボ（島根大学 教育学部 人文地理学研究室 サテライト・ラボラトリー）
ホームページ	http://matuhira.ikidane.com/
所属／ 担当者名	まつひらそんじゅく 松平村塾 理事長：佐々木 建也
連絡先	電話：0855-52-1970 eメール：matsuhirason@iwamicatv.jp
活動地域	島根県 江津市 松平地区（松川町・川平町を併せた地域の呼称）

## ● 活動地域の概要

### 1、対象地域の位置と現状

松平地区は一級河川江の川が日本海に注ぐ河口から約3～15km上流に位置し、川と並走するR261を挟んで東側が松川町、西側が川平町である。江の川沿いの豊かな自然と周辺の山地に囲まれた広範な地域で、面積は市域の約4分の1を占める一方、S30年には3,600人であった人口は現在970人（江津市人口比3.6%）で、高齢化率は45.3%に及び、消滅集落の発生などコミュニティの存続が困難となりつつある地域である。



### 4、空き家の発生状況（出典：島根大学人文地理学研究室）

地区	空き家数	居住宅数	合計	空き家率
川平町	38	128	166	22.9%
松川町	75	320	395	19.0%
合計	113	448	561	20.1%

→5軒に1軒の割合で空き家が発生

\*2006年度江津市との共同研究より

2、集落の数及び高齢化率 ◆松川地区7集落、高齢化率42.8% ◆川平地区2集落、高齢化率52.7%

3、集落毎の人口や世帯数 ◆松川地区＝326世帯（725人） ◆川平地区＝128世帯（245人）

## ● 活動地域の課題

過疎化が進行して空き家や耕作放棄地が増え、数年前に中学校が廃校になり、今年の3月に松平小学校が廃校になる。このような地域が衰退する現状を嘆いてばかりでなく、地域活性化に立ち上がる元気なお年寄りややる気のある団塊の世代の人たちが農産物直売所、炭焼き、農業団体などいくつかの団体を立ち上げている。そして、地域には江の川や里山に育まれた豊かな自然や鎌倉時代からの歴史や伝統文化などの地域資源が豊富である。

しかし、豊かな地域資源は活用されずに埋もれていたり、各地区に展開する団体は脆弱で、世代を超えた人たちの連携は希薄である。地域資源、活動団体と地域の人達それぞれが有機的に連携し、「たすけ愛」ながら地域全体として地域づくりに取り組むための中間支援的な組織が必要である。そして、外部との交流を行うことにより外部の風を呼び込み、そこから定住促進や地域活性化に繋げる仕組みが必要である。

## ● 活動の内容

### （全体）

4年前に地域の有志が集まり地域づくりの実践部隊として「松平村塾」が立上った。そして、一昨年に松平村塾の活動を支援する形で島根大学教育学部で人文地理学を専攻する作野准教授の研究分室「松平ラボ」が設立された。ここに、松平村塾（実践部隊）×松平ラボ（シンクタンク）の協働による地域づくりが始まった。活動は主に3つである。活動1；地域の団体やイベントを支援する中間支援、活動2；1社1村交流や広島軽トラ朝市などによる都市との交流、活動3；地域課題を再抽出・分析し地域戦略を練る学びの活動である。

### （直近1年間の進捗など）

一昨年、1社1村交流により大阪の民間企業と共同による農作業など行う交流事業を松平地区で行った。その結果、地域外の人を地域が一体となって受け入れて対応することで、地域内の連携が強まった。そして、都会から来た人たちが松平地区での体験を楽しみ、学び、感動した様子を見ることが、地域に自信と誇りを与えてくれた。地域外の人たちとうまく連携すれば、持続可能な地域維持の可能性も見えてきた。

昨年は、広島からサーフィンするために日本海の海にやってくる広島サーファーグループと農作業などを通じた交流を行なった。また、外部から受け入れる交流ばかりでなく、地域から都市に向いて都市住民と交流する活動をさらに進化させた。具体的には、「軽トラ朝市」として、地域で活動する団体が連携して農産物や加工品を広島市内に軽トラで持ち込み「軽トラ朝市」を行った。

## ● 活動の成果

### ・全体

#### 【活動1：中間支援組織活動】

地域には四季折々に開催されるイベントや地域活性化を目指す団体（農産物直売所、農事組合法人、炭焼工房、ツーリズム宿）がある。松平村塾×松平ラボはイベントや団体を支援するとともに、それぞれの繋がりを強くして、地域の伝統文化の伝承を図りながら地域活性化を目指す中間支援的な活動を行っている。

#### 【活動2：都市との交流活動】

広島サーファーグループとは、地域のイベント（手前味噌づくり、梅取り、ソバ刈）を通じた交流を行った。そして、軽トラ朝市では、夏には広島市の中心地にあるホテル「八丁堀シャンテ」で、秋には広島市の郊外にある高陽団地で、主に松平産の農産物を軽トラで運び、直売市を開催した。

#### 【活動3：学びの活動】

毎月1回、作野准教授も参加して地域マネジメント戦略会議を行うとともに、年3回のセミナーを開催して地域づくりの事例や手法・考え方を学び、地域の担い手育成を行っている。そして、昨年の「新たな公」発表会で交流した山口県の「貴和の里にどう会」を訪問して、意見交換などの交流する視察研修も行った。



年末のイベント「川登の市」



広島高陽団地の「軽トラ朝市」

### ・最近1年間の成果など

広島サーファーとの交流では、グループの人たちによる耕作放棄地を利用した週末農業が始まった。日本海にサーフィンをした帰りに松平の畑で野菜を作るサーファーに、地元の人達が農業指導している。「ファーマーになったサーファー」としてマスコミにも取り上げられた。

広島で軽トラ朝市を2回行ったが、いずれも沢山の人が集まり大盛況のなかで松平産の新鮮な野菜加工品が売れた。それは、単に物を売るのではなく、軽トラ朝市という松平産の農産物を通じた都市の人たちとの新たな交流を芽生えさせた。そして、年末には高陽団地で軽トラ朝市を共催した「落合東福祉センター」の人たちがバスに乗り、松平のイベント「川登の市」を訪問する相互交流に発展した。



広島サーファー

## ● 今後の課題及び展望

### ・課題（活動を通して発見された課題等を記入）

都市と農村の交流は、都市から農村を訪れる一方通的な交流が多く、農村は常に受け入れる側であった。今年度は、農村から都市に出かけて、農産物の直売による都市住民との交流を行った。そこで新たに見えたものは、少子高齢化による過疎の問題は、農村だけでなく都市においても深刻な問題となっていることである。夏に開催した広島中心部の軽トラ朝市では、我々に「人恋しい」そうに話しかける独居者（若い女性や高齢者）がいた。また、秋に開催した郊外の団地は、人口減少でスーパーなどが閉店して、高齢者が生鮮食品などの買い物に困難になっている団地であった。都市における過疎は、地域とのつながりの薄い孤独な独居者を生んでいる。我々は、「軽トラ朝市」というイベントを通じて、農村からの癒しと美味しい食材を都会にお裾分けし、都市からは農村にないマンパワーをいただくという、農村と都会の双方にメリットのある互恵関係のある交流を行いたいと考えている。

今回の交流事業により地域内の団体の連携を強くしたが、より多くの地元住民が参加できる仕掛けが必要である。また、交流事業を一過性のイベントでなく、継続的に運営していくためにはプロジェクトを遂行する専任スタッフが必要である。松平村塾のメンバーは、それぞれが仕事を持ちながら地域活動に参画している。専任スタッフによる、様々な活動の調整を行う体制が必要である。そして、地域づくりを行う上で必要なのは活動資金であり、それを確保する仕組みも課題である。「活動」を採算ベースに乗せることのできる「事業」にする仕掛けも必要である。

### ・展望（今後の取組みや検討について記入）

地域づくりにおいては様々な困難に遭遇するが、困難を乗り越える過程で地域に結束や新たな化学反応が生まれる。松平村塾×松平ラボの協働による地域づくりにより、人が人を呼び地域に新しい風がどんどん入ってきている。また、都市との交流をきっかけに、地域内のまとまりと士気や活力が盛り上がってきた。過疎高齢化が進行する松平地区ですが、今後は外からの風と地域に内在する地域資源を活用して、地域活性化に繋げるとともに定住者と呼び込む持続可能な地域づくりを確立していく。

## ● その他（自由記述）

松平の地域マネジメントビジョンは、松平で暮らすことに自信を持ち、「ありのままがいい」と言い切れる松平らしい地域づくりを目指すことである。この地域では、一人ひとりが強い絆で結びついていて、「たすけ愛の輪」が循環する地域でありたいと願っている。この松平モデルを実現するためには、行政からの支援がもう少し必要である。今、この支援が途絶えたら、折角膨らんだ地域の夢がしぼんでしまう。日本の片隅の忘れ去られそうな小さな農村に支援された一昨年の「新たな公」で我々は少し元気になった。事業仕分けで削減された「新たな公」の復活を切望する。